

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名【新】救急・災害医療情報システム構築事業費（次期）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111(内3238)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 262,658 千円 （前年度予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	262,658	0	0	0	0	0	0	0	262,658
決定額									

2 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

岐阜県救急・災害医療情報システム（平成26年9月までは岐阜県広域災害・救急医療情報システム）は、平常時は、消防機関や住民等に対して医療機関の救急医療情報を提供し、円滑な救急搬送等に活用し、また、局地災害発生時には、消防本部からの支援要請登録、要請を受けた医療機関からの支援情報の入力により、効果的な患者搬送等につなげ、救命率の向上を図ることを目的としたものである。

現行システムは、令和2年3月に運用を開始したものであるが、利用契約が令和8年9月末で終了することから、より効率的で、機能的な次期システムへの更新を行う。

（２）事業内容

- ・岐阜県救急・災害医療情報システムの再構築

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・10/10 (県)

(4) 類似事業の有無

- ・類似事業なし。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	262,658	システム再構築費
合計	262,658	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第8期岐阜県保健医療計画
第3部 保健医療施策の推進

(2) 国・他県の状況

- ・救急医療情報システム（広域災害・医療情報システム）は、愛知県、三重県で導入されている。

(3) 後年度の財政負担

- ・現行システムの保守・運用業務委託期間は、令和2年3月から令和8年9月までの79か月となっている。
- ・更新後のシステムの保守・運營業務委託契約は、令和8年10月から令和13年9月までの5年間を予定している。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・国主導によりシステムの検討がなされ、各都道府県が主体となって整備・運用を行っているものである。岐阜県の運用開始は昭和58年12月からである。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
迅速で適切な救急搬送が行えるよう、本システムを運営し、救急医療体制のより一層の充実を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由
本システムの再構築作業であり、一時的な経費の支出であるため指標を設定することができない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和6年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	本システムの再構築作業は救急医療体制の整備のために必要な事業である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 更新したシステムを実際に現場で利用してもらい、発生した不具合等を順次改善していく必要がある。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 次期システムの更新にあたっては、救急搬送業務等に支障をきたさないよう、適確でスムーズな移行に努める。また、新システム運用開始後は、引き続き、迅速で適切な救急搬送が行えるよう、救急医療体制のより一層の充実を図っていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	